## 挑戦する事は自分を成長する

行動し挑戦する事は、自分自身を成長させる近道である。理由として、新たな発見や様々な経験ができるからだ。例えば、グッドデザイン賞を取った NUboard を頂き、プロモーション活動をし続けていると、ロチェスター工科大学の学内マガジンから

“NUboard をマガジンに掲載してみないか？”

と依頼された。活動当初は、まず商品を提供してもらえるかさえわからなかったが、最終的には雑誌の掲載依頼までされるようになったのである。他の製品に関してはハーバード大学のパーティーに招待してもらえるなど、自分の想像を超える出来事がたくさんあった。こういった成功体験は私に自信を付けてくれ、新たなモチベーションに変えていった。

行動していく中にはもちろん失敗や辛いこともある。むしろ、私は失敗が多かった。だが、“失敗”という言葉は一見悪い響きに聞こえるが、失敗する事は何かしら原因があるわけで、その問題を突止め、自分の物にすれば大きくレベルアップすることができる。

例えば、ホームパーティーの DJ に関しては、事前に音楽を準備していったのだが、だだスベリしていた。理由として、私はアメリカの音楽を知らなすぎたのである。今人気がある曲や、アーティスト、どのようなジャンルや曲調が好まれているかなど、勉強不足であった。

“これはヤバい…”

と思うくらい本当にダメなパターンだったので尋常じゃないくらい冷や汗をかいた。私は必死で打破策考え、そして、“最悪あの子だけでも喜ばせたい…”と思ったのである。直ぐ様周りにいた人に好きなアーティストや様々なアメリカの音楽情報を聞き出し用意した。その結果、全体的に盛り上がり、私が狙っていた女の子も踊り出してくれていたのである。最終的には盛り上がりすぎて警察が来るぐらいまでになってしまったのである。

だが、それ以上に最悪な事件が私の中で起こってしまった。

それは、狙っていた女の子がお客と接吻を交わしていたのである。私は何とも言えない感情になり、フェードアウトしたかった。DJ はつらい仕事だと思った。

このように、失敗もたくさんあったがそのおかげで自分に今何が足りないかなど学べる事もたくさんあった。他にも、DJ や VJ などのスキルも向上し、忍耐的にも強くなる事ができたのである。

## “知る”という事の大切さ

“何をしていいのかわからない。”という人は多いと思う。そういう人はまず自分のできる事を書き出していって欲しい。そうすれば少なからず見えてくる物がある。私がホームパーティーをした理由も、アメリカらしい事をやりたいと考えた際、自分のできるスキルを書き出し、DJ と VJ(Virtual Jockey)が出てきたため、パーティーというアイデアを発想することができた。

正直な話 DJ に関してはただ、“１回やった事があるんだけど…”というレベルであったが、あまりにも自分にできるスキルが少なかったため無理矢理“できるリスト”に追加したまでである。そんなミジンコレベルのものでも良いのでまず、自分のやってきたリストをピックアップし、自分の強みを調べる事を重要視した。その結果、アメリカらしいホームパーティーを主催することができ、日本製品のプロモーション活動の際は動画や web サイトを作れるという強みで企業にアピールすることができ、製品を頂くことができた。

## いのちだいじに→ガンガンいこうぜ

この留学を通して全てに言える事は、私はただ一歩踏み出しただけである。留学というチャンスが来た時に飛びついただけであるし、ホームパーティーもアイデアがあったから挑戦しただけなのだ。その際には、不安や失敗の恐怖などたくさんあったが、保守的にならず、とりあえずガンガンいっただけである。やっていけば意外と良い方向に進むものである。

完璧ではなくても一歩踏み出すという事が一番重要であり、一歩踏み出さなければ評価すら得られない。やらなければ三流以下なのである。初めは誰かのマネでも良い。行動する事により見えてくる道もある。自分のやりたい事、やってみたい事があれば迷わず一歩踏み出して欲しい。一歩踏み出し、やってみると意外と楽しいものである。

## 胸を張って言える事

留学中にはパスポート盗難、ホームレス事件などの珍事件や辛い経験も多々あったが、私は留学をして良かったとはっきり言える。なぜなら、これらの経験や、ハーバード大学のパーティーに招待されたり、マガジン掲載依頼が来たり、スポンサーがつくなど少しアクションを起こす事によってこれだけ世界が変わったのである。そして、あらゆるもののハードルが下がったのも確かであるからだ。そして、私は根本的な知識力、語彙力、技術力など多くの事が欠落していることもこの留学で痛感する事ができた。

このように、これらの事は私にとって凄くプラスな事であり、大きく成長させる経験となった。今後は自分の足りない部分を補っていき、日本でも変わらず松山らしい活動をしていく。新たな挑戦や、もし何か要望があれば、是非金沢工業大学、もしくは私のメール(darenimoiimasennyo@gmail.com)にてご連絡下さい。

最後に、国際交流室札野順教授をはじめとする国際交流室のスタッフ関係各位、留学中エールを下さった教務部長佐藤恵一教授をはじめとする金沢工業大学のスタッフの方々、留学中も親身に指導してくださった千石靖准教授、何も言わず送り出してくれた家族、応援してくれた方々には本当に感謝しています。違った意味での“問題児”でしたが皆さんのおかげで全てを乗り越える事ができました。本当にありがとうございます。

これで留学報告を終わらせていただきます。

金沢工業大学メディア情報学科 4 年
松山　聡志